

秦野市地下水総合保全管理計画 中間評価（令和7年度）

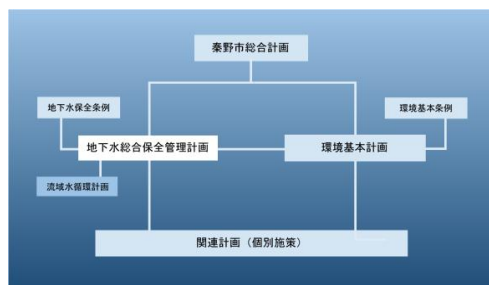
～現状と課題、今後の取組の方針～

1 秦野市地下水総合保全管理計画の概要



位置付け

秦野市の地下水総合保全管理計画は、環境基本条例の趣旨を実現するため、環境基本計画や地下水保全条例と連携し、秦野市総合計画との整合も図りながら、市内の地下水保全施策を横断的に展開する基本方針を示すもの。



目的「健全で持続可能な水循環の創造」

地下水は「水」として循環している一連の流れの一部であることから、蒸発→降水→表流水・地下水形成→流出のプロセスである水循環を健全な状態に保ち、将来にわたって持続的に利活用していくことを目的とします。

計画目標

秦野名水の保全と利活用

～名水百選「秦野盆地湧水群」の保全と「秦野名水」の利活用～

安定的な水収支

～豊かな地下水と地下水盆（※1）の保全～

安全な地下水

～飲料水として安全な地下水の供給～

施策の基本的な考え方

- 自然の水循環系の構成要素の回復を目指し、人為的な水循環系で補完する
- 秦野名水の利活用は、水量及び水質の保全を考慮する
- 秦野盆地の地形的特徴を最大限に活用する
- 地域で活躍する秦野名水名人とともに秦野名水の保全と利活用を図る

施策の取組

I 地下水をマネジメントする

II 秦野名水名人とともに

III 地区特性への配慮

※1 地下水盆（ちかすいぼん）…地下水がたまっている地下の器のような地形構造のこと。

2 中間見直しの概要と目的

本計画は、地下水の保全と持続的な利活用を目的として、令和3年度から令和12年度までの10年間を期間として策定したものである。

令和7年度が計画期間の中間年に当たることから、施策の実施状況や社会的背景の変化を踏まえ、中間見直しを行った。

中間見直しでは、これまでの施策の進行状況や運用体制を確認し、課題を整理したうえで、必要に応じて改善策を検討し、今後の運用方針に反映することを目的としている。

なお、（※2）「はだの水循環モデル」については、新たな知見は得られなかったため、引き続き、現計画を踏襲するもの。

※2 はだの水循環モデル…秦野市の地下水などの流れを数値や図で再現し、水の動きを分析するための仕組み。

3 計画目標の評価

秦野名水の保全と利活用

～名水百選「秦野盆地湧水群」の保全と「秦野名水」の利活用～

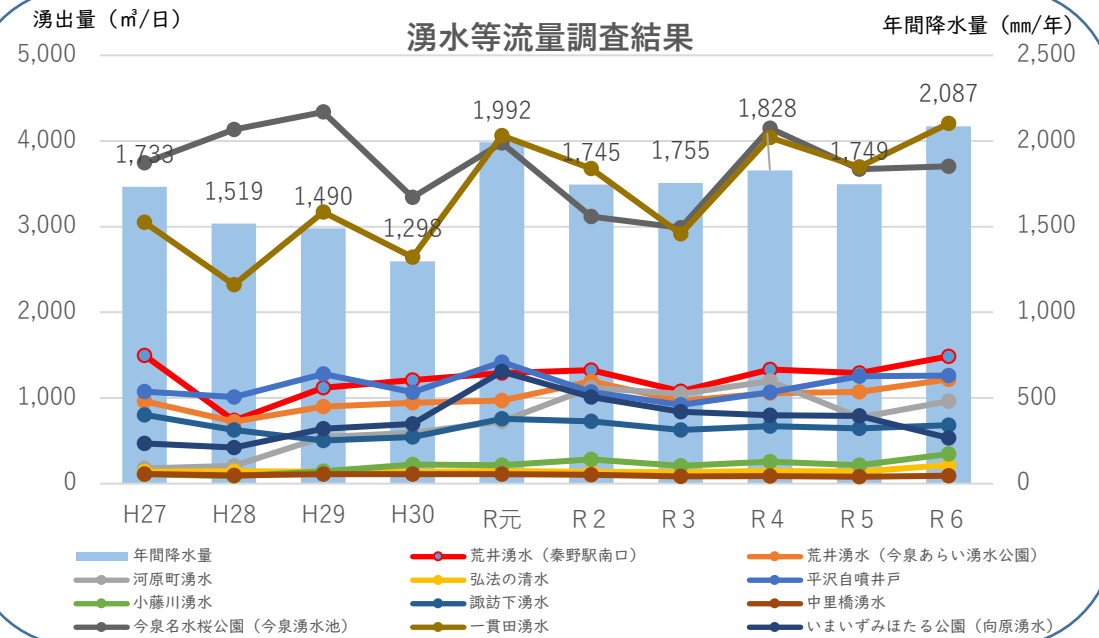
- 地下水の水量を保持するとともに、湧水の湧出量の保全と水辺の整備に努めます。
- 郷土の誇りである秦野名水の啓発に努め、対外的に「名水の里秦野」の名声を広めるとともに、市民の共通認識を高めます。
- 市民共有の財産にふさわしい秦野名水の利活用をします。

中間見直しの評価

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・湧水等の流量は概ね安定しており、地下水量も維持されている。 ・名水サミットや体験型イベントにより、名水に親しんでもらう取組をしている。 ・ロゴマーク使用や情報発信により、秦野名水ブランドの認知向上を図っている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・気象条件の影響を受けやすく、湧水等の流動変動に注意が必要 ・名水の魅力や価値の認知が十分ではない。 ・名水を活用した商品や事業の展開が広がっていない。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・気象条件の変化に備え、モニタリングを継続し、観測体制の強化を図る。 ・秦野名水の価値や魅力を広く伝え、認知の向上を図る。 ・名水を活用した事業や商品の展開を支援し、ブランド発信を推進する。

【総合評価】
概ね順調

適正な水量を維持しながら、秦野名水利活用指針に基づく新たな利活用が進められている。一方で、ブランド認知度は十分とは言えないため、効果的な発信を図りながら、計画に沿って着実に取組を継続する。



秦野名水ロゴマークを使用した製品などで名水の価値や魅力を伝えました。

【秦野名水ロゴマーク使用事業所】
(令和6年度末) 169件
[内訳：一般101件・行政68件]



秦野名水をベースに使用した化粧品



名水サミット in はだのを開催 (R7年11月8日)
 ・名水シンポジウム参加者：505人
 体験型イベントを実施 (R7年度)
 ・選抜総選挙応募総数：1,354件
 ・スタンプラリー参加者：468人

3 計画目標の評価

安定的な水収支

～豊かな地下水と地下水盆の保全～

- 秦野盆地の地下水盆を活用し、自然の水循環系を人為的な水循環系で補完することにより、地下水の水位を高めます。
- 気候変動等による降水量変化の影響を受けにくい地表環境を確保するため、水源林の保全・再生事業を進めます。
- 秦野盆地の(※3)地下水賦存量を推定し、(※4)水収支に基づく計画的な利活用を含めた地下水の保全管理を推進します。

※3 地下水賦存量（ふぞんりょう）…地下にどのくらいの量の地下水が存在しているかを推定した量

※4 水収支…地下水に入る量と出ていく量から、地下水量の変化を把握する目安

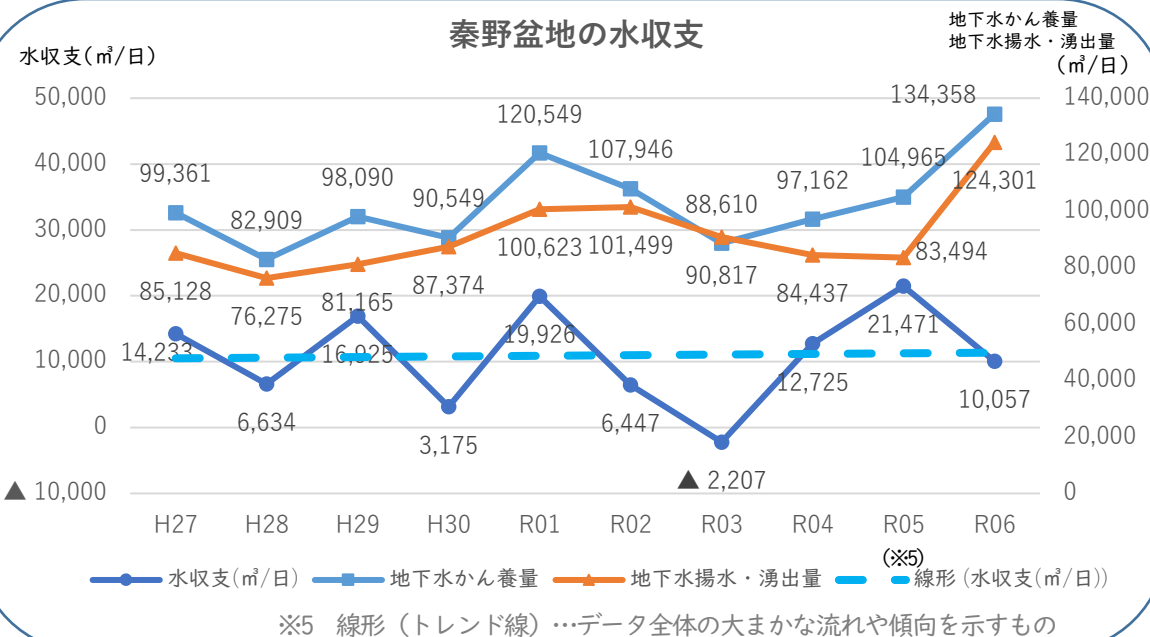
中間見直しの評価

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・水収支は、降水量の影響を受けつつも黒字を維持し、経年で微増傾向 ・人工かん養施策や森林・里山整備により、水循環の効果が向上 ・地下水は、長期的に上昇傾向で、警戒水位を下回ったことはなく、健全
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間の多量降雨では、水が涵養される前に河川へ流出してしまう。 ・森林の緑のダム効果（保水力）を更に向上させる必要がある。 ・地下水保全施策をより効果的に推進し、計画的な利活用が必要
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・森林・里山整備を継続し、保水力の向上を図る。 ・人工かん養施策と自然環境整備を組み合わせ、水循環の持続可能性を強化 ・地下水・保全施策を計画的に実施し、地下水の利活用を適切に進める。

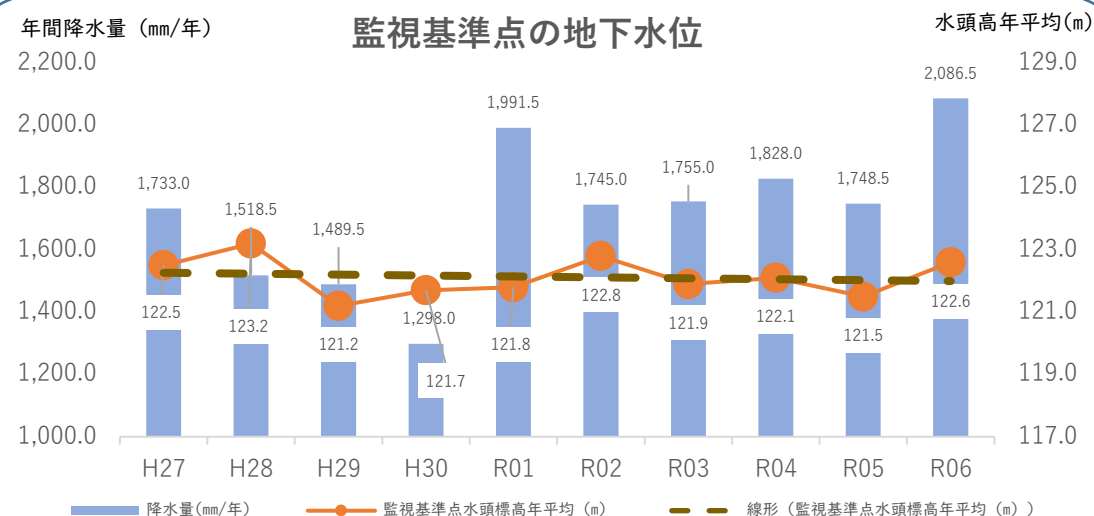
〔総合評価〕
概ね順調

人工かん養などの取組により水収支は黒字を維持し、安定してきている。概ね順調に推移しているため、今後も計画に沿って着実に取組を継続する。

秦野盆地の水収支



監視基準点の地下水位



3 計画目標の評価

安全な地下水

～飲料水として安全な地下水の供給～

- 地下水の水質汚濁に係る環境基準の達成に努めます。
- 秦野市地下水保全条例に定める浄化目標の達成に努めます。
- 深層地下水の水質改善に取り組みます。
- 新たな地下水汚染の未然防止に努めます。

中間見直しの評価

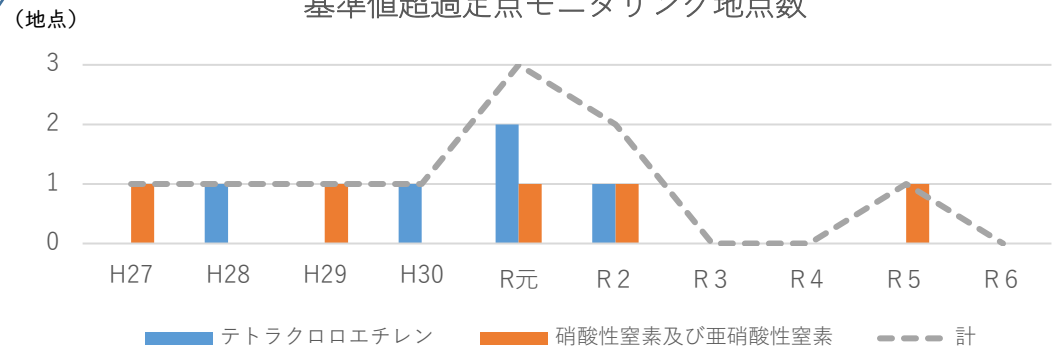
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・深層地下水の浄化装置事業を行い、水質改善を着実に進めている。 ・目標超過地点は年度ごとにばらつきがあるが、全体として減少している。 ・飲用以外の個人井戸で、(※6)PFOS・PFOAの指針値超過事例が確認された。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・浄化目標値の年度差を踏まえ、安定的な水質改善が必要がある。 ・浄化事業や監視にかかる時間・コストの効率化が課題 ・新たな汚染（PFOS・PFOA）の拡大防止に向けた監視強化が必要である。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・浄化事業や監視体制を継続・強化し、水質改善と汚染防止を着実に進める。 ・効率的な監視・浄化の手法を検討し、時間・コストの最適化を図る。 ・PFOS・PFOAの数値は減少傾向にあるが、状況変化把握のため、継続的に監視を行う。

※6 PFOS・PFOA：代表的な有機フッ素化合物（合計50ng/L以下が指針値）

〔総合評価〕
着実に進行中

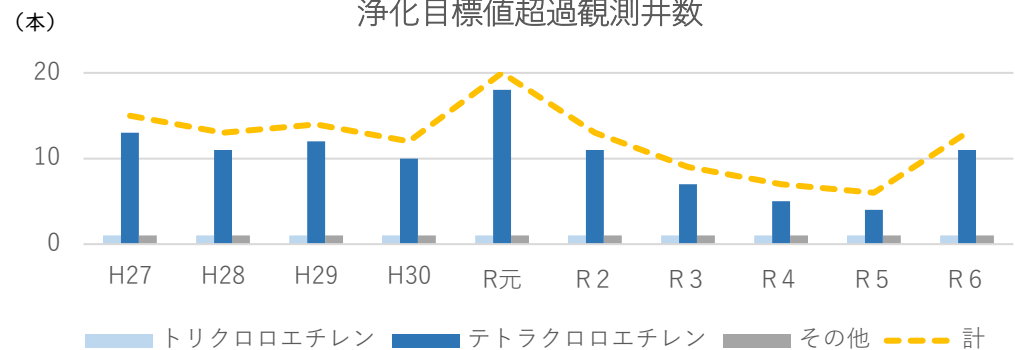
浄化事業や監視活動で一定の成果は得られているものの、浄化事業には継続的な取組や効果的な浄化が必要であることから、今後も計画に沿って着実に取組を継続する。

基準値超過定点モニタリング地点数



基準値超過物質	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
テトラクロロエチレン	0	1	0	1	2	1	0	0	0	0
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	1	0	1	0	1	1	0	0	1	0
計	1	1	1	1	3	2	0	0	1	0

浄化目標値超過観測井数



対象物質	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
トリクロロエチレン	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
テトラクロロエチレン	13	11	12	10	18	11	7	5	4	11
その他	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	15	13	14	12	20	13	9	7	6	13

4 施策の取組と評価

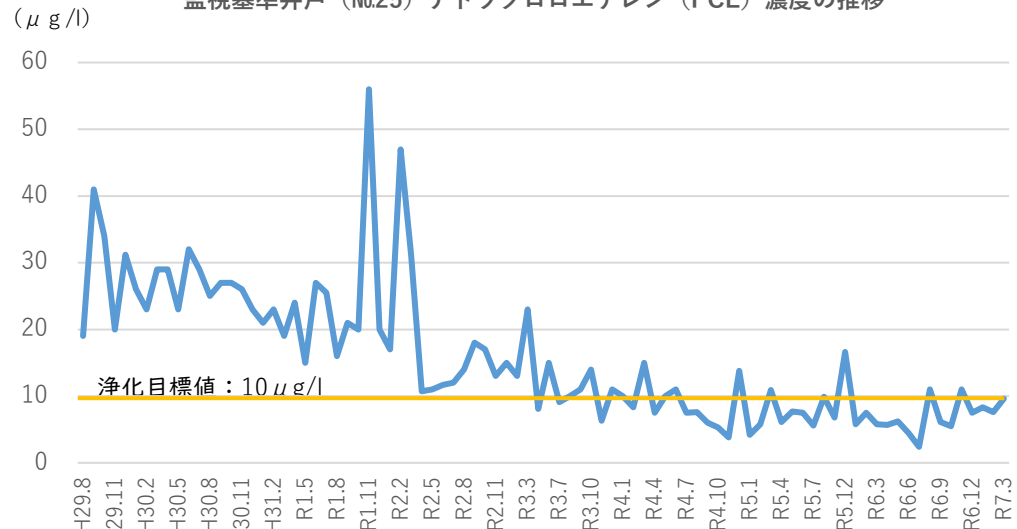
I 地下水をマネジメントする

マネジメント	施策の方向	目標値
1 はだの水循環モデル	はだの水循環モデルを用いた水資源管理システムによる地下水のマネジメント	—
2 秦野盆地の地下水賦存量	浅部と深部の帯水層を一体的に捉え、モニタリングによる適切な管理のもとで利活用を進める	—
3 秦野盆地の地下水収支	地下水収支と貯留量の一致を踏まえ、水収支による地下水管理を行う	秦野盆地の地下水黒字収支
4 秦野盆地の地下水位	監視井No.25の地下水位を管理指標とし、持続可能な秦野名水の利活用を進める	監視基準井戸（観測井No.25）の水頭標高117m以上（警戒水位）
5 地下水の浄化	監視基準井戸の浄化目標達成に向けた効果的な対策を推進	監視基準井戸（観測井No.25）の浄化目標値達成

中間見直しの評価

現状	<ul style="list-style-type: none">降水量の影響はあるが、水収支は全体として黒字で、長期的には微増加傾向にある。地下水は、長期的には上昇傾向にあり、警戒・注意水位を下回ることなく安定している。PCEは、経年では減少傾向にあり、近年は目標値を下回ることが多く、浄化が進んでいる。
課題	<ul style="list-style-type: none">長期的変動や気候変動の影響を踏まえ、継続的な評価が必要浄化効果を高めるには適切な実施場所が重要だが、選定が難しい。効果的な水質観測のため、調査対象井の精査が必要
今後の取組	<ul style="list-style-type: none">長期的変動や気候変動を踏まえ、水収支と地下水位の監視・評価を継続する。浄化効果を高めるため、適切な場所での浄化施策を実施・検討する。モニタリング体制を強化するため、効率的かつ効果的に水質・地下水を監視する。

監視基準井戸（No.25）テトラクロロエチレン（PCE）濃度の推移



	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
水収支(m³/日)	14,233	6,634	16,925	3,175	19,926	6,447	※ ▲2,207	12,725	21,471	10,057
監視基準点水頭 標高年平均(m)	122.5	123.2	121.2	121.7	121.8	122.8	121.9	122.1	121.5	122.6
年間降水量(mm)	1,733.0	1,518.5	1,489.5	1,298.0	1,991.5	1,745.0	1,755.0	1,828.0	1,748.5	2,086.5

※R3年度は、夏季に短期間の集中豪雨が複数回発生し、雨水が地下に浸透せず地表を流れて市外へ流出したことが一因と考えられる。

〔総合評価〕 概ね順調

水量・水質ともに安定しており、健全な状態が維持されている。概ね順調に推移しているため、今後も計画に沿って着実に取組を継続する。

4 施策の取組と評価

Ⅱ 秦野名水名人とともに

マネジメント	施策の方向
1 使う名人	<ul style="list-style-type: none"> 地下水の特徴を生かした水源及び災害時の活用 「秦野名水の利活用指針」に基づく市民共有の財産にふさわしい利活用 名水百選・親水施設を生かしたまちのにぎわいづくり
2 守る名人	<ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティの活用 水資源管理支援ツールの活用 地下水保全条例に基づく浄化事業
3 育てる名人	<ul style="list-style-type: none"> 地下水かん養の促進 SDGsの達成、温室効果ガス削減への寄与 気候変動に対応した安定的な地下水位の確保
4 伝える名人	<ul style="list-style-type: none"> 秦野名水名人講の創設と活動 環境配慮行動意識の高い子どもたちの育成 秦野名水の知名度・ブランド力向上 地下水の見える化
5 秦野名水名人講座・秦野名水名人講	

中間見直しの評価

現状	<ul style="list-style-type: none"> 利活用指針により地域特性を踏まえ、新規井戸を許可し、新たな利活用を推進した。 はだの水循環モデルを活用し、地域経済の活性化につながる新規井戸設置の影響を評価した。 名水名人講座修了生による「秦野名水名人講」を創設し、秦野名水の啓発活動を実施した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 各種啓発活動を行っているが、知名度の向上はなかなか進んでいない。 秦野名水名人講の活動は限定的で、自主的な活動には十分至っていない。 取組の進め方に担当課ごとの温度差が見られた。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 名水を活用した啓発と地域活性化の取組を継続的に推進する。 秦野名水名人講の活動の場を拡大し、自主的な活動を促進する仕組みを整備する。 定期的な進行管理や情報共有の場を設け、担当課間の温度差を解消する。

はだの水循環モデルを活用し、産業利用促進ゾーンにおける揚水シミュレーションを実施（R3年度）

秦野丹沢テクノパークでの利用可能水量

- 地下水 3,000 m³/日
- 上水道 450 m³/日



水田を用いた地下水かん養事業を実施

(単位: m²)

	R3	R4	R5	R6
休耕田	7,829	7,829	7,829	7,829
冬期水田	4,778	6,715	8,860	8,860
合計	12,607	14,544	16,689	16,689

【秦野名水名人講座】

- ・年1回、全5回シリーズ講座を実施
- ・延べ参加者数: 103名 (R3年度~R7年度)

【秦野名水名人講】

- ・秦野名水名人講を創設 (R3年度)
- ・会員数: 84名 (R7.3末現在)
- ・名水講座等での講師をはじめ、紀伊の守水源の清掃活動や啓発事業を実施



【総合評価】
概ね順調

秦野名水名人と連携し、保全活動を進めながら利活用の取組も概ね順調に推移しているため、今後も計画に沿って着実に取組を継続する。

5 地下水保全に係る社会情勢等の変化

内 容	関係法令等の概要	秦野市地下水総合保全計画における評価・対応
関連法令の改正等		
水循環基本法の改正（2021年）	<ul style="list-style-type: none"> 地下水の適正な保全及び利用に関する施策の位置付け 地下水に関する基本的施策の追加 水循環基本計画の一部変更と地下水施策の明確 	基本的な施策は現行計画に反映されており、今後は運用面の充実（モニタリング強化、情報共有、計画の定期見直し）によって実効性を高める。
地下水保全ガイドラインの改訂（2021年）	<ul style="list-style-type: none"> 流域マネジメントの推進と地下水データベースの活用 硝酸性窒素等による地下水汚染対策の強化 地下水採取規制の強化と地盤沈下対策の推進 	
災害時地下水利用ガイドラインの策定（2025年）	<ul style="list-style-type: none"> 生活用水としての地下水活用の推進 民間所有の井戸・湧水の事前登録制度の導入 地下水マネジメントの必要性と補助制度の紹介 	
水質基準に関する省令及び水道法施行規則の一部改正（2025年）	<ul style="list-style-type: none"> PFOS・PF0Aの合算値を50ng/L以下とする水質基準を設定 水道事業者等に対し、PFOS・PF0Aについて原則として3か月に1回以上の水質検査を義務付け。 	質の保全の適正管理（間接的施策）における現行施策で対応（個別施策：水道法に基づき、適正な水質管理に努めます）
自然環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> 局地的な大雨など、短時間で大量の降雨が発生する傾向 気象の変動などにより、気温の高い日が増加 	自然環境の変化と地下水との因果関係が不明確なため、状況把握を目的にモニタリングの強化を図る。

6 中間見直しの評価・課題

現状・評価	課題	今後の取組
<ul style="list-style-type: none"> 目的や個別施策は、計画どおり概ね順調に進んでいる。 短期的には成果が見えにくく、効果が表れるまでには時間がかかる。 継続的な取組が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 所管課間の認識の違いにより、一部施策において地下水保全の視点が十分に共有されていない場面が見られる。 施策によっては数値化が難しく、評価が困難なものもあり、進捗状況の把握や管理が十分でないものがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後は、年度ごとの進行状況の点検を実施し、担当課による施策の棚卸しとKPIの分類整理（定量・定性・理念型）を段階的に進め、実効性のある進捗管理体制を整える。

7 今後の取組の方針

本中間見直しを通じて、現行の地下水総合保全管理計画における理念、施策体系、安定的で安全な地下水に関する対応状況については、引き続き妥当であると考えます。

また、多くの施策が計画に沿って実施され、一定の成果を上げている点からも、現行計画の実効性は維持されていると評価しています。一方で、関係課ごとの施策への関与範囲や役割分担が必ずしも明確でないことや、成果や効果を把握するための評価指標が十分に整理されていないといった課題も明らかになりましたが、これらはいずれも計画本文の修正を要するものではなく、今後の運用改善により対応可能です。

以上を踏まえ、現行計画は当初の計画期間（令和3年度～12年度）を通じて継続し、今後は進行管理の強化やKPIの整理・分類を段階的に進めながら、進捗状況を把握し、管理体制を整えることで、計画の着実な推進を図っていきます。

8 スケジュール



個別施策の自己評価等

No.	個別施策			体系図	自己評価	実績等			今後の方針
						指標	R元年度	R6年度	
1-1	間 接 的 施 策	マ ネ ジ メ ン ト	はだの水循環モデルを用いた水資源管理支援ツールによる地下水のマネジメントを図ります。	I-1 II-1	実施済み	水収支	—	10,057 m ³ /日	現状維持
1-2			自然の水循環系に人為的な水循環系を組み合わせた施策の展開により、水収支のバランスを保持します。	I-1 II-2	実施済み	水収支	19,926 m ³ /日	10,057 m ³ /日	現状維持
1-3			地下水盆のほぼ中央に位置する観測井No.25を地下水盆の監視基準井戸とします。	I-4 II-2	実施済み	監視回数（頻度）	1回/月	1回/月	現状維持
1-4			災害時における緊急的な水源として利用できるように、常に地下水の水収支のバランスを保ち、湧水量・地下水位の安定化を図ります。	I-3 II-2	実施済み	水収支		10,057 m ³ /日	現状維持
1-5			新東名高速道路及び厚木秦野道路（国道246号バイパス）建設に伴う影響調査とその対策について、関係機関と協議していきます。	II-2	一部実施	協議回数等	随時	随時	現状維持
1-6		モ ニ タ リ ン グ	地下水位、河川・湧水流量等の調査により、地下水盆の監視に努めます。	I-2 II-2	実施済み	観測井調査回数（地点）	月1回調査 （40 地点）	月1回調査 （46地点）	現状維持
1-7			監視基準井戸の水頭標高117m（GL-9.4m）を警戒水位として、地下水盆の健全性を監視します。	I-4 II-2	実施済み	年平均・最低・最高	平均 121.8 m 最低 119.8 m 最高 123.4 m	年平均 122.6m 年最低 120.2m 年最高 124.3m	現状維持
1-8		水 源 林 等	森林法などによる所有権移転の届出について情報の共有化を図り、森林の所有形態について監視していきます。	II-2	実施済み	森林の土地の所有者届出件数	13 件	47件	現状維持
1-9			「秦野市森林整備計画」に基づき、「かながわ水源の森林づくり事業」「里山ふれあいの森づくり事業」「ふるさと里山整備事業」等の諸施策を展開します。	II-3	実施済み	①かながわ水源の森林づくり事業 ②里山ふれあいの森づくり事業 ③ふるさと里山整備事業	①合計 2798.12 ha ②合計 60.56 ha ③合計 523.29 ha	① 1.40ha ② 30.69ha ③ 30.29ha	現状維持
1-10			里山林の雑木について、再生可能エネルギーの一つである木質バイオマスとして有効活用することで、里山保全団体の活動意欲の向上や活性化を図ります。	II-3	実施済み	活動団体数	—	22団体	現状維持

No.	個別施策			体系図	自己評価	実績等			今後の方針
						指標	R元年度	R6年度	
I-11	間 接 的 施 策	水 源 林 等	環境保全型農業を支援します。	Ⅱ-3	実施済み	GAP導入団体	8 団体	7団体	現状維持
I-12			荒廃遊休農地の解消の取り組みを支援します。	Ⅱ-3	実施済み	①荒廃農地解消ボランティアと連携した荒廃農地の解消 ②農とみどりの補助金を利用した荒廃農地の解消	① 0.4ha ② 0.25ha	① 0.0698ha ② 0.6718ha	現状維持
I-13			樹林保全地区の維持管理を支援します。	Ⅱ-3	実施済み	樹林保全地区面積	95,140 m ²	92,740m ²	現状維持
I-14			環境創出行為の際、緑化の推進指導をしていきます。	Ⅱ-3	実施済み	面積	8,939m ²	3,200m ²	現状維持
I-15	直 接 的 施 策	雨 水 利 用 等	学校プールの水を校庭のスプリンクラーに利用するなど水の再利用を図ります。	Ⅱ-2	実施済み	導入件数（小・中）	小学校(13校) 中学校(9校)	小学校(13校) 中学校(9校)	現状維持
I-16			多様な雨水利用の促進を図ります。	Ⅱ-2	一部実施	導入実績件数	—	0件	現状維持
I-17			市民一人一人が節水・適正使用の目的を意識できるよう啓発していきます。	Ⅱ-2	実施済み	実施回数（頻度）	随時	随時	現状維持
I-18			新東名高速道路建設により秦野市域から湧出するトンネル坑内湧出水は、すべて市域内に返還し、有効的な活用を図ります。	Ⅱ-2	実施済み	かん養水量	—	634,528m ³ /年	現状維持
I-19		規 制	監視基準井戸の水頭標高116m（GL-10.4m）を制限水位とし、これを下回った場合は、井戸設置者に対して、秦野市地下水保全条例第47条に基づく地下水の利用制限を命じます。	I-4 Ⅱ-2	未実施	命令件数	—	0 件	現状維持
I-20			工事による水道水源及び地下水への影響の恐れがある場合、その対処について指導します。	Ⅱ-2	未実施	指導件数	随時	随時	現状維持

No.	個別施策			体系図	自己評価	実績等			今後の方針
						指標	R元年度	R6年度	
I-21	直接的施策	規制	秦野市まちづくり条例に基づく「秦野市軟弱地盤対策指導基準」により、軟弱地盤地域内の建築物の建築施工前・中・後に影響調査実施を指導します。	Ⅱ-2	実施済み	指導件数	随時	継続4件	現状維持
I-22			「神奈川県温泉保護対策要綱」に定める温泉準保護地域内及び隣接地において、地盤を掘削する工事を行う場合、既存源泉へ影響を与えない工法で行うように指導します。	Ⅱ-2	未実施	指導件数	随時	0件	現状維持
I-23			温泉準保護地域内及び隣接地において、中高層建築物を建築する場合、工事施工前の影響調査報告書に基づき、関係行政機関で協議し、温泉保護に必要な指導をします。	Ⅱ-2	未実施	指導件数	随時	0件	現状維持
I-24			新規の井戸設置に当たっては、地下水節水計画・地下水かん養計画を指導します。	Ⅱ-3	実施済み	指導件数	—	1件	現状維持
I-25	直接的施策	地下水かん養	人工かん養を促進します。	Ⅱ-2	実施済み	①人工かん養水量 ②水田かん養面積	② 12,607 m ²	① 91,156 m ³ ② 16,689 m ² ・休耕田7,829 m ² ・冬季水田8,860 m ²	現状維持
I-26			雨水浸透ます等の設置に対して支援していきます。	Ⅱ-2	実施済み	設置件数（公・私）	公 1件 民 6件	公 31件 私 88件	強化維持
I-27			水道水源の約7割を担っている地下水を育むため、地下水の人工かん養を促進します。	Ⅱ-2	実施済み	人工かん養数	水田かん養、雨水浸透施設設置、注水井	累計711件	現状維持
I-28			機能していない用水路の修復により、失われた人工的な水循環を回復します。	Ⅲ-3	実施済み	酒匂川系から金目川水系へ	113,000 m ³ /年	173,010 m ³ /年	現状維持
I-29			一定規模以上の建築物については、雨水浸透施設の設置や節水対策の指導をしていきます。	Ⅲ-3	実施済み	指導件数	—	年間4件（設置）	現状維持
I-30			家庭用の雨水浸透ます等の設置に対して、積極的に支援していきます。	Ⅲ-3	実施済み	補助件数	0件	0件	強化維持

No.	個別施策			体系図	自己評価	実績等			今後の方針
						指標	R元年度	R6年度	
1-31	直接的 施策	地下 水 かん 養	歩道の透水性舗装を推進します。	Ⅲ-3	実施済み	敷設距離（面積）	0㎡	113.9m (344㎡)	現状維持
1-32			自然の水循環系に人為的な水循環系を組み合わせた地下水かん養を促進します。	Ⅲ-3	実施済み	人工かん養種類数	—	7種	現状維持
2-1	間 接 的 施 策	未 然 防 止	浄化事業の終了していない関係事業者に対して、指導・監督を継続します。	Ⅰ-5 Ⅱ-2	実施済み	対象事業者数（随時）	5社	4社	強化維持
2-2			新たな浄化技術の研究及び情報の収集・提供に努めます。	Ⅱ-2	実施済み	実施回数（頻度）	随時	7回	現状維持
2-3			代替物質の情報の収集及び提供に努めます。	Ⅱ-2	実施済み	実施回数（頻度）	随時	5社	強化維持
2-4			講座を開催し、地下水保全に係る情報を提供します。	Ⅱ-2	実施済み	講座開催回数	1回（環境月間） (47人)	1講座（5回）	現状維持
2-5			規制物質（ダイオキシン類・硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素・重金属等）による汚染の未然防止のため、県と協力して法律及び条例による指導に努めます。	Ⅱ-2	実施済み	指導件数	随時	随時	現状維持
2-6			環境基本法に基づく地下水の水質汚濁に係る環境基準について、市内20地点でのモニタリング調査を継続します。	Ⅱ-2	実施済み	基準値超過地点数	1地点	0地点	現状維持
2-7			未規制物質（モリブデン・内分泌かく乱物質等）による汚染対策として、水質の監視を継続します。	Ⅱ-2	実施済み	モリブデン調査回数、箇所、超過数	年1回 13か所 指針超過0地点	年1回 12か所 指針超過0地点	事業縮小
2-8			市街化調整区域における家庭用小型合併処理浄化槽への転換に対する補助制度について、市民に周知し設置の普及を促進します。	Ⅱ-2	実施済み	補助実績	補助実績6基（累計1,783基）	補助実績3基（累計1,803基）	現状維持
2-9			県及び警察との連携により、不法投棄防止に努めます。	Ⅱ-2	実施済み	合同パトロール数	2回	4回	現状維持

No.	個別施策		体系図	自己評価	実績等			今後の方針	
					指標	R元年度	R6年度		
2-10	間 接 的 施 策	適 正 管 理	水量変化が少なく、線的な用水系統と異なり全体が分断されにくい地下水の特徴を生かし、災害時における緊急的な水源として利用できるように水質及び施設の管理に努めます。	Ⅱ-1	実施済み	自家発電設備設置数	25か所設置済	10か所 年合計36件	強化維持
2-11			秦野市地下水保全条例に基づき、使用事業所に対する立入調査等により、対象物質の適正な使用及び保管の指導を徹底します。	Ⅱ-2	実施済み	立入検査実施回数	年1回	年1回	現状維持
2-12			水道法に基づき、適正な水質管理に努めます。	Ⅱ-2	実施済み	検査実施回数等	給水栓1回／月 全項目1回／年	給水栓1回／月 全項目1回／年	強化維持
2-13			水道施設の耐震化及び老朽設備の更新を図り、安全な水道水の供給体制を強化していきます。	Ⅱ-2	一部実施	耐震化された配水場数	耐震化済配水場11か所（内久根、千村、金井場、堀山下低区）	堀山下高区配水場(R2実施)	現状維持
2-14			ゴルフ場農薬による環境への影響を未然に防止するため、農薬の使用量の把握、減量及び使用管理体制の充実を指導します。	Ⅱ-2	実施済み	下流の水質調査	年2回	年2回	現状維持
2-15			減農薬及び減化学肥料による農作物の栽培等、環境負荷の軽減に配慮した環境保全型農業を支援します。	Ⅱ-2	実施済み	実施回数	堆肥供給促進のため、堆肥供給畜産農家リストを紹介	随時	現状維持
2-16			家畜排せつ物の管理の適正化を図ります。	Ⅱ-2	実施済み	指導回数	随時	随時	現状維持
2-17			公共下水道の整備・維持管理を推進します。	Ⅱ-2	実施済み	対市街化区域整備率	98.20%	98.20%	事業縮小
2-18			除草剤使用の抑制及び適正化について啓発をします。	Ⅱ-2	実施済み	周知回数（時期）	広報掲載	広報掲載（1回）	現状維持

No.	個別施策		体系図	自己評価	実績等			今後の方針	
					指標	R元年度	R6年度		
2-19	直接的 施策	汚染 浄化	人為的な浄化技術では対処できない汚染箇所について、MNA（自然科学的減衰）の手法を用いた水質監視を継続します。	I-5 II-2	実施済み	観測井戸調査実施回数（対象数）	月1回(75本)	月1回（78本）	現状維持
2-20			自然の水循環が極めて遅い深層地下水（浅部帯水層・第4礫層）に、人為的な動きを加える深層地下水浄化事業を進めます。	I-5 II-2 II-2	実施済み	深層地下水浄化装置設置数	3基	3基	強化維持
2-21			市内5か所の配水場に設置してある浄水装置により、水道水の安全を確保していきます。	II-2	実施済み	配水場数	5か所設置済み	5か所設置済み	現状維持
3-1	量と 質の 保全	啓 発	国登録記念物「曽屋水道」や紀伊ノ守水源を再整備し、まち歩きの拠点として活用していきます。	II-1	実施済み	活用件数	—	3件	現状維持
3-2			名水百選「秦野盆地湧水群」の代表的な湧水地を拠点施設として再整備し、名水めぐりに活用していきます。	II-1	実施済み	活用件数	—	4件	現状維持
3-3			パンフレット等を作成し、分かりやすい情報の提供に努めます。	II-4	実施済み	実施回数（頻度）	秦野名水まっぷの配布 市内の小学4年生全児童に上下水道事業パンフレットを配布	随時	現状維持
3-4			ホームページによる地下水位や水収支等の最新の情報提供に努めます。	II-4	実施済み	情報発信件数（頻度）	—	随時	現状維持
3-5			市民に対して、水資源の大切さを理解していただけるよう啓発に努めます。	II-4	実施済み	実施回数（頻度）	随時	随時	現状維持

個別施策			体系図	自己評価	実績等			今後の方針
					指標	R元年度	R6年度	
量と質の保全	啓発	秦野名水を通じて、水の大切さや安全な水に対する意識を高める。	Ⅱ-4	実施済み	実施回数（頻度）	—	随時	現状維持
		モニター広告、TVデータ放送、SNS、YouTube、ブランドアンバサダー等による秦野名水の情報発信に努めます。	Ⅱ-4	実施済み	発信件数（頻度）	—	随時	現状維持
		秦野名水フェスティバル等の啓発活動の充実や各種イベントにおける秦野名水のPRをしていきます。	Ⅱ-4	実施済み	啓発活動の実施件数	—	10件	強化維持
		秦野名水名人講座の受講者による秦野名水名人講を設置し、「使う・守る・育てる・伝える」活動を推進します。	Ⅱ-4	実施済み	名人講による活動実績	—	4回	強化維持
		プロジェクションマッピング・ダッシュボード式のホームページにより、分かりやすい地下水の見える化に努めます。	Ⅱ-4	実施済み	実施回数（頻度）	—	2回	現状維持
	環境教育	秦野名水に関して専門性の高い秦野名水名人講座を開催します。	Ⅱ-4	実施済み	名人講座の開催件数	—	1件	現状維持
		はだのエコスクールによる学校等へのプログラムを提供します。	Ⅱ-4	実施済み	実施回数	エコスクール地下水の話 10回	110回	現状維持
		紙芝居、すごろく、かるた等のわかりやすいツールによる秦野名水の普及啓発に努めます。	Ⅱ-4	実施済み	実施回数	—	16回	現状維持
		ポスター、標語の募集を通じ、秦野名水の保全と利活用に対する意識の高揚を図ります。	Ⅱ-4	実施済み	募集実績（作品数）	—	環境ポスター：331 環境標語：210	現状維持
		「エコキッズはだの」及び「はだのっ子アワード事業」との連携を図ります。	Ⅱ-4	実施済み	連携件数	—	1件	現状維持

No.	個別施策			体系図	自己評価	実績等			今後の方針
						指標	R元年度	R6年度	
4-1	利活用	秦野名水・名水百選	限られた地域資源を最大限に有効活用するため、市民共有の財産である秦野名水の有効活用を図ります。	Ⅱ-I	実施済み	活用件数	庁内会議の開催	1件	現状維持
4-2			「秦野名水の活用戦略」に基づき、名水の里秦野のブランド力の向上に努めます。	Ⅱ-I	実施済み	ロゴマーク承認数	—	7件	現状維持
4-3			はだの水循環モデルを活用し、持続可能な新たな利活用の可能性を検討します。	Ⅱ-I	実施済み	検討回数（頻度）	—	随時	現状維持
4-4			「秦野名水の利活用指針」に基づき、健全な水循環に配慮した、地域特性を生かした利活用を図ります。	Ⅱ-I	実施済み	利活用数（頻度）	—	随時	現状維持
4-5	利活用	秦野名水・名水百選「秦野盆地湧水群」	秦野名水ロゴマークの使用を拡充し、名水の里秦野をPRしていきます。	Ⅱ-I	実施済み	ロゴマーク承認数	—	12件（一般10件・公用2件）	現状維持
4-6			水質、水量、災害対策に優れる地下水を水道水源として利用していきます。	Ⅱ-I	実施済み	水源に占める利用率（水量）	—	自己水比率82.5%	現状維持
4-7			地下水の水質や下流域への影響を考慮して、深井戸による新規水源の開発を進めます。	Ⅱ-I	実施済み	新規水源箇所数	0	0	現状維持
4-8			名水のPRと災害時の備蓄のため、ボトルドウォーター「おいしい秦野の水・丹沢の雫」の製造販売をしていきます。	Ⅱ-I	実施済み	製造件数（販売件数）	141,120本（123,048本）	374,400本（389,160本）	現状維持
4-9			災害対策として、地域コミュニティを活用した災害時協力井戸の登録や公共的な水場の管理をします。	Ⅱ-I	一部実施	災害協力井戸数	—	58箇所	現状維持
4-10			個人井戸及び企業井戸の現状把握に努め、災害時の利用について協力を求めます。	Ⅱ-I	実施済み	災害時協力井戸	137件	60件	現状維持
4-11			カルチャーパークせせらぎ水路の水源として設置した井戸を災害時生活用水として活用します。	Ⅱ-I	実施済み	設置件数	カルチャーパークせせらぎ水路（H28）1件	カルチャーパークせせらぎ水路（H28）1件	現状維持

No.	個別施策		体系図	自己評価	実績等			今後の方針
					指標	R元年度	R6年度	
4-12	秦野名水・名水百選「秦野盆地湧水群」 利活用	地域に埋もれている湧水等を再発見し、新たな名水めぐりコースを創設します。	Ⅱ-I	実施済み	コース数	—	7コース	現状維持
4-13		身近な親水空間や生態系への配慮として、護岸工事に当たって多自然型工法の採用を要望します。	Ⅱ-I	未実施	改修工事実績（長さ）	—	—	事業縮小
4-14		「生き物の里」の指定により、谷戸の湧水による生物多様性の確保に努めます。	Ⅱ-I	実施済み	指定件数（累計）	6か所	7か所	現状維持
4-15		大深度温泉「つるまき千の湯」を地域の活性化に活用していきます。	Ⅱ-I	実施済み	利用者数	—	随時	現状維持
4-16		秦野名水・名水百選を観光資源として活用していきます。	Ⅱ-I	実施済み	活用実績（利用種別数）	—	随時	現状維持
4-17		SDGsの目標6「安全な水とトイレを世界中に」に寄与する行動を起こします。	Ⅱ-I	実施済み	募金型自販機による募金額	—	10,213円	現状維持
4-18		地球温暖化対策として、温室効果ガスの大部分を占める二酸化炭素の排出量を減らすため、再生可能エネルギーの一つである小水力発電に湧水を活用した取組みを検討します。	Ⅱ-I	未実施	検討回数（頻度）	—	随時	現状維持
4-19		地中熱利用の高いポテンシャルを活用し、省エネルギーの促進を図るため、地中熱利用の普及啓発に努めます。	Ⅱ-I	未実施	検討回数（頻度）	—	随時	現状維持

No.	個別施策		体系図	自己評価	実績等			今後の方針
					指標	R元年度	R6年度	
4-20	利活用	秦野名水・名水百選「秦野盆地湧水群」	Ⅱ-2	実施済み	保全活動数（頻度）	随時	随時	現状維持
4-21			Ⅱ-2	実施済み	保全活動数（頻度）	随時	随時	現状維持
4-22			Ⅱ-2	実施済み	啓発実績数（頻度）	随時	随時	現状維持
4-23			Ⅱ-3	一部実施	要望数（頻度）	—	随時	現状維持

	自己評価			今後の取組			
	実施済み (計画どおり、または完了)	一部実施 (部分的に着手、あるいは途中)	未実施 (まったく着手されていない)	現状維持	強化維持	事業縮小	事業完了
①量の保全	26	2	4	30	2	0	0
②質の保全	21	0	0	14	5	2	0
③量と質の保全	15	0	0	13	2	0	0
④利活用	18	2	3	22	0	1	0
合計	80	4	7	79	9	3	0